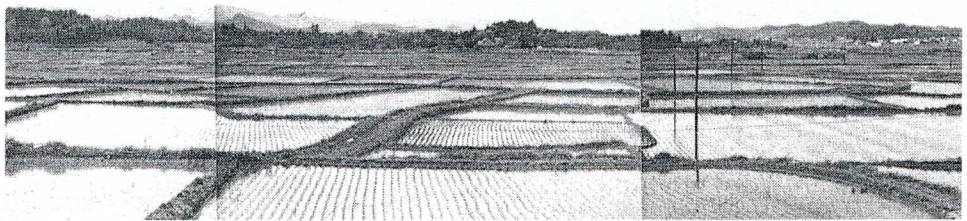


2 水田を広くする ～土地くかくせいり区画整理～

表郷村では、昭和30年代までは、せまい水田が多く、牛や馬を使ってたがやしたり、人手によって、田植えや稲いねかりの仕事をしたのうぎょうりしていました。しかし、農業に使うきかいが開発されてからも水田の面積がせまいため、きかいをなかなか使いきれませんでした。



(昭和30年ごろの田のようす)

村では、大がたのきかいを使ってできる農業をめざして、水田1まい当たりの面積を広げる計画を立て、県に協力してくれるようにたのみました。県では、昭和40年から県営ほ場整備事業えいじょうせいびじぎょうと農業構造改善事業こうぞうかいぜんじぎょうとして、工事を始めました。福島県内では3番目に始まりました。

工事のあらまし

(社川沿岸土地改良区調べ1995年)

年度	県営ほ場整備事業 <small>えいじょうせいびじぎょう</small>	農業構造改善事業 <small>のうぎょうこうぞうかいぜんじぎょう</small>
昭和40年度	ふかわど 深渡戸地区 田 17.2ha 道路 1419m 水路 5729m	ばんざわ 番沢地区 田 53.57ha 道路 7101m 水路 18934m
昭和41年度	かとうだ ほりのうち 河東田・堀之内地区 田 101.16ha 道路 10108m	ばんざわ ないまつ 番沢・内松地区 田 35.81ha 道路 5821m